
3R 推進団体連絡会 第二次自主行動計画

2013 年フォローアップ報告

(2012 年度実績)

2013 年 12 月

3R 推進団体連絡会

ガラスびんリサイクル促進協議会
PET ボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

はじめに

■ 3R 推進団体連絡会の結成と自主行動計画策定の経緯

2000年に完全施行された容器包装リサイクル法は、2006年6月にはじめての改正が行われました。改正に先立つ1年半にわたる中央環境審議会・産業構造審議会での議論の過程で、(一社)日本経済団体連合会(以下「経団連」)は、提言「実効ある容器包装リサイクル制度の構築に向けて」(2005年10月)を取りまとめ、事業者の自主的な取り組みが重要であること等を表明しました。



これを受けて、容器包装の素材に係るリサイクル八団体(以下「関係八団体」)は、「3R 推進団体連絡会」を結成し、2005年12月、「容器包装リサイクル法の目的達成への提言」と題する提言を行い、事業者の決意をあらためて表明すると共に、翌2006年3月に2010年度を目標年次とした自主行動計画、「Ⅰ. 事業者による3R 推進に向けた自主行動計画」、及び「Ⅱ. 主体間の連携に資する取り組み」を公表しました。

以後、当連絡会では計画項目の達成に向けた取り組みを進めるとともに、毎年度の進捗状況を、翌年12月にフォローアップ報告として公表してきました。数値目標も含め、共通の取り組み課題を持って事業者自身が3R 推進に取り組んだこと、また、消費者や自

治体、学識経験者など様々な主体との連携を図ってきたことなど、関係八団体が実施する初の共同の取り組みとして、一定の成果が挙げられたものと考えます。

■ 第二次自主行動計画フォローアップ(2012年度実績)をお届けします

現在は、2015年度を目標年次とする第二次自主行動計画を推進中です。本報告書は第二次自主行動計画の2年度目に当たる2012年度の取り組み実績をまとめたものです。

今年度より国において容器包装リサイクル法の見直し審議も開始されています。当連絡会としても、事業者としての役割の深化と主体間の連携推進に向け、より一層努力して参る所存です。最後になりましたが、当連絡会及び構成団体の活動にご理解とご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。

容器包装 3R の 2012 年度実績

ここでは、容器包装の 3R に向けた事業者自らの取り組み成果を報告します。

第二次自主行動計画

1 事業者自ら実施する 3R 推進計画

○リデュース

- ・容器包装の軽量化・薄肉化
- ・適正包装の推進・詰め替え容器の開発等

○リユース

- ・リユースびん市場開拓など容器別の取り組み
- ・消費者意識調査など連携強化に向けた取り組み

○リサイクル

- ・容器包装のリサイクル性の向上
- ・消費者への PR・啓発
- ・集団回収等の多様な回収の拡大に向けた研究・支援

2 主体間の連携に資するための行動計画

○関係八団体共同の取り組み

- ・情報共有、意見交換の場の充実
- ・PR・啓発事業の継続
- ・調査・研究事業の実施

○共通のテーマによる各団体の取り組み

- ・情報提供・普及啓発活動
- ・調査・研究
- ・サプライチェーン事業者間の連携

1. リデュースの取り組み

2015 年度目標に向け、着実に進展しています。

■使用資源の削減と安心・安全等との両立に向けて

リデュースに関しては、数値目標を定めた軽量化・薄肉化の取り組み、適正包装の推進や詰め替え容器の開発・普及など、素材の特性に応じた多様な取り組みを展開しています。第一次自主行動計画では 8 素材中 7 素材が 2010 年度目標を達成したことを受け、第二次自主行動計画ではさらなる軽量化率、削減率を目標として掲げ取り組んでいます。

また、容器包装には「内容物の保護」「取り扱いの利便性向上」「消費者への情報提供」といった役割があり、こうした機能と環境配慮とのバランスにも配慮していく必要があります。さらに、事業者が「適正包装」と考えていても、消費者の目には過剰と映る場合があるのも事実です。事業者としては、今後とも消費者・市場との対話を心がけ、機能と環境配慮のバランスの取れた適正包装を推進していくべきと考えています。

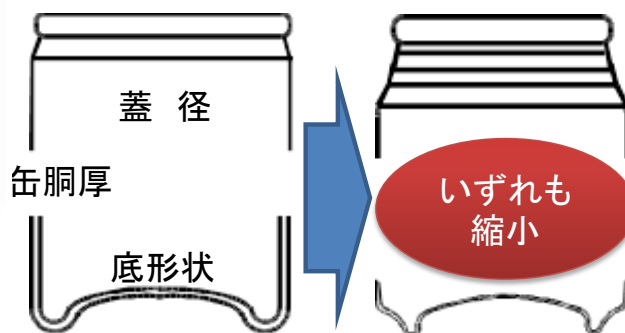
【リデュースの取り組み事例】



プラスチック容器包装の削減
(プラスチック容器包装 3R 事例集 2012 年度版)



紙パックの軽量化
(500ml パック軽量化テスト)



金属缶の軽量化

■2012 年度のリデュース実績

下表 1 に素材別のリデュース実績を示します。PET ボトルや紙製容器包装、スチール缶、段ボールでは、すでに昨年度までの目標値を上回る軽量化が進んだため、目標値を見直し、上方修正しました。

各素材とも引き続き軽量化に向けた研究開発を図っております。同時に、各団体とも「3R 事例集の作成・会員企業への配布」（紙製容器包装、プラスチック容器包装等）、消費者の認知度アップのための広報（ガラスびん）など、リデュース促進に向けた取り組みを展開しています。

なお、各団体別の取り組みの詳細、例えば適正包装の推進や詰め替え容器の開発・普及、関連企業への周知徹底などの取り組みにつきましては、「各団体の取り組み」をご覧ください。

表 1 リデュースに関する 2012 年度実績（2004 年度比）

素材	2015 年度目標 (2004 年度比) (※1)	2012 年度 実績	2006 年度からの 累計削減量	備考
ガラスびん	1 本当たりの平均重量で 2.8%の軽量化	2.1%	143 千トン	
PET ボトル	指定 PET ボトル全体で 15%の軽量化効果	13.0%	331 千トン	2015 年度目標を 10%から上方修正
紙製容器包装	総量で 11%の削減	9.9%	711 千トン	2015 年度目標を 8%から上方修正
プラスチック容器包装	削減率で 13%	11.5%	58 千トン	
スチール缶	1 缶当たりの平均重量で 5%の軽量化	4.9%	115 千トン	2015 年度目標を 4%から上方修正
アルミ缶	1 缶当たりの平均重量で 3%の軽量化	3.8%	42 千トン	
飲料用紙容器 ※2	牛乳用 500ml 紙パックで 3%の軽量化	1.0%	165 トン	
段ボール	1 m ³ 当たりの平均重量で 5%の軽量化	3.6%	985 千トン	2015 年度目標を 1.5%から上方修正

※1 各団体の目標値については、必要に応じて見直しを検討する。

※2 2005 年度比。紙パック原紙の仕様レベルで比較

2. リユースの取り組み

消費者・自治体・事業者との連携した取り組みを進めています。

■主体間の連携が不可欠な「リユースシステム」

ガラスびんにおいては、リユース促進に向け国のモデル事業や研究会への参加や、消費者・自治体・流通販売事業者・びん商といった関係者との連携による地域・市場性に合わせた取り組み、及び消費者意識喚起に向けた情報発信等を行ってきました。PET ボトルにおいては、国の研究会に参加するなどして調査研究を進めた結果、安全性の問題や環境負荷削減効果が限定的であるとの結論が得られています。

【リユースの取り組み事例】



茅ヶ崎市におけるリユースモデル事業（2007年度）



リターナブルびん利用促進モデル事業（2008年度）
（モデル事業用ネックリンガーと販売風景）

■2012年度のリユースの取り組み

ガラスびんリサイクル促進協議会は2012年度の環境省の実証事業に協力し、自治体・事業者等多様な関係者の連携による地域型びんリユースシステムの構築に取り組んでいます。

また、リユースシステムの強化には消費者の認知度アップが不可欠です。リユース活動の「見える化」に向け、ガラスびんリサイクル促進協議会ではWEBサイト「リターナブルびんポータルサイト」での情報発信や、小中学生への環境教育の支援等を展開しています。

3. リサイクルの取り組み

着実に回収率等が向上しています。

■リサイクル推進に向け、多様な取り組みを展開しています。

リサイクルを進めるために、各団体において消費者や自治体との連携、つぶしやすい容器包装の開発、減容化可能容器や複合素材についての研究の促進などに取り組んでおり、第一次自主行動計画では8素材中5素材が2010年度目標を達成しました。また、各容器包装リサイクル団体ではリサイクルフローの調査など実態把握にも取り組み、必要に応じて指標を見直しています。

リデュースの取り組みと同様、「内容物の保護」「取り扱いの利便性向上」等の機能性とのバランスに配慮しつつ、引き続きリサイクル性の向上をめざし研究開発をすすめています。また、集団回収や店頭回収など、他主体との連携による多様な回収ルート構築にも引き続き取り組んでいきます。

【リサイクルの取り組み事例】



「びん to びん」リサイクルの動画での広報



スチール缶集団回収への支援

<底部>
罫線の形成によりつまんで
解体しやすとした



紙製容器包装の改善事例
(紙製容器包装 3R 改善事例集第6版)



PET ボトルから PET ボトルへの再生 (B to B)

■2012 年度のリサイクル実績

2012 年度の各素材のリサイクル実績を表 2 に示します。ガラスびん、PET ボトル、スチール缶、アルミ缶、段ボールといった高水準のリサイクル率を達成している素材においては、その水準の維持が図られています。紙製容器包装、プラスチック容器包装、飲料用紙容器といった素材においても着実に目標に向かい回収率等が向上しています。

なお、つぶしやすい容器包装の開発、減容化可能容器や複合素材についての研究、自主回収の促進など、各団体の取り組みの詳細については、「各団体の取り組み」をご覧ください。

表 2 リサイクルに関する 2012 年度実績

素材	指標 (※1)	2015 年度目標	2012 年度実績
ガラスびん	リサイクル率 (カレット利用率)	70%以上 (97%以上)	68.8% (100.3% ※2)
PET ボトル	リサイクル率	85%以上	85.0%
紙製容器包装※3	回収率	25%以上	23.0%
プラスチック容器包装	再資源化率	44%以上	40.9%
スチール缶	リサイクル率	85%以上	90.8%
アルミ缶	リサイクル率	90%以上	94.7%
飲料用紙容器	回収率	50%以上	44.2%
段ボール	回収率	95%以上	98.4%

※1 指標の定義は次ページ参照。各団体の目標値については、必要に応じて見直しを検討する。

※2 2012 年度のカレット利用率は、分母のガラスびん生産量が品質向上による歩留まり低下のため、100%を超える結果となっている。参考として分母を原材料総投入量（カレット総投入量＋パージン資源量）とすると、2012 年度のカレット使用率は 75.9%となる。

※3 2015 年度目標を 22%から上方修正

補足：リサイクルの指標について

2002 年に経済産業省設置の委員会が策定した「資源循環指標ガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）では、リサイクルを評価する指標として、「回収率」（使用済製品の回収された割合）、「再資源化率」（回収された製品の内、再資源化された割合）、「回収・再資源化率」（回収率×再資源化率）をあげています。

当連絡会では、ガイドラインを踏まえ回収量や再資源化量の把握に努めると共に、必要に応じて既存の指標の見直しを行ってきました。表 2 の中で、指標が「リサイクル率」となっているものは、ガイドラインの定義する「回収・再資源化率」にほぼ準拠しています。また、回収ルートや再資源化ルートが多岐にわたるなどして「回収・再資源化率」の把握が困難な素材では、回収率や再資源化率といった指標を用いています。

各団体とも継続的にデータの補足範囲の拡大及び精度の向上に向けた取り組みを進めています。したがって、今後の自主行動計画の見直しにおいて、目標に用いる指標を変更する可能性があります。なお、第二次自主行動計画の 2015 年度目標値については、前倒しで目標達成がなされた場合などにおいて適宜見直しを図っていきます。表 3 に素材ごとのリサイクル指標の定義一覧を示します。

表3 リサイクルに関する指標の定義一覧

素 材	指標の定義及び備考
ガラスびん	$\text{リサイクル率} = \frac{\text{再生利用目的で利用事業者}(\ast 1)\text{に引渡されたカレット総重量}}{\text{ガラスびん国内出荷総重量 (出荷量+輸入量-輸出量)}}$ $\text{カレット利用率} = \frac{\text{ガラスびんの原料に利用されるカレット総投入量}}{\text{ガラスびん生産量}}$ <p>※1 ガラスびん製造メーカー+その他用途事業</p>
PET ボトル	$\text{リサイクル率} = \frac{\text{リサイクル量 (国内再資源化量}\ast 1\text{+海外再資源化量}\ast 2\text{)}}{\text{国内 PET ボトル販売量}}$ <p>※1 国内再資源化量=国内向け回収量×再資源化率(フレークまたはペレット) ※2 海外再資源化量はフレーク又はペレット換算で、PET 推進協調査から算出</p>
紙製容器包装	$\text{回収率} = \frac{\text{紙製容器包装の回収実績}(\ast 1)}{\text{紙製容器包装の家庭からの排出量}(\ast 2)}$ <p>※1 回収物の組成分析調査、市町村アンケート調査より行政回収量・集団回収量を推定 ※2 家庭からの排出量モニター調査より推定</p>
プラスチック容器包装	$\text{再資源化率} = \frac{\text{再商品化量}(\ast 1) + \text{店頭回収など自主的に回収した量}(\ast 2)}{\text{排出見込み量}(\ast 1)}$ <p>今後様々なリサイクル手法が用いられる可能性が高いことから、分子に現在把握可能な自主的な回収量を加え、指標の名称を再資源化率としている。 ※1 公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会公表値 ※2 実測値</p>
スチール缶	$\text{リサイクル率} = \frac{\text{国内鉄鋼会社等によるスチール缶(Cプレス・C シュレッダー等)の購入量}(\ast 1)}{\text{スチール缶(食缶・該当 18L 缶・一般缶)の国内消費量(出荷量+輸入量-輸出量)}}$ <p>※1 購入量は、アルミ蓋・水分・異物等を除いて鉄鋼メーカーが購入利用した重量</p>
アルミ缶	$\text{リサイクル率} = \frac{\text{再生地金等の製造に使用済みアルミ缶を利用した重量}(\ast 1)}{\text{国内で出荷された缶重量(塗料を除く)}}$ <p>※1 分子は二次合金メーカーの工場入口トラックスケールを元に、組成率を加味して算出</p>
飲料用紙容器	$\text{回収率} = \frac{\text{国内飲料用紙パック回収量}}{\text{飲料用紙パック原紙使用量}}$ <p>※1 産業損紙・古紙を含む</p>
段ボール	$\text{回収率} = \frac{\text{段ボール古紙実質回収量}(\ast 1)}{\text{段ボール原紙消費量}(\ast 2) + \text{輸出入商品用}(\ast 3)}$ <p>※1 回収された段ボール古紙に含まれる段ボール以外の古紙及び段ボールに付着した糊の重量を除いて計算したもの ※2 段ボール工場における段ボール原紙消費量 ※3 輸出入商品を梱包する段ボールの入超推定量</p>

連携のための共同の取り組み

ここでは、容器包装 3R 推進に向けた市民、事業者、行政など各主体との連携を深めるため、当連絡会の関係八団体が共同で取り組んだ結果を紹介します。

第二次自主行動計画

1 事業者自ら実施する 3R 推進計画

- リデュース
 - ・容器包装の軽量化・薄肉化
 - ・適正包装の推進・詰め替え容器の開発等
- リユース
 - ・リユースびん市場開拓など容器別の取り組み
 - ・消費者意識調査など連携強化に向けた取り組み
- リサイクル
 - ・容器包装のリサイクル性の向上
 - ・消費者への PR・啓発
 - ・集団回収等の多様な回収の拡大に向けた研究・支援

2 主体間の連携に資するための行動計画

- 関係八団体共同の取り組み
 - ・情報共有、意見交換の場の充実
 - ・PR・啓発事業の継続
 - ・調査・研究事業の実施
- 共通のテーマによる各団体の取り組み
 - ・情報提供・普及啓発活動
 - ・調査・研究
 - ・サプライチェーン事業者間の連携

■紹介する取り組みの対象年について

当連絡会では、主体間の連携に資するため、下表のような様々な取り組みを積み上げてきています。次ページからは2013年11月までの取り組みの成果を紹介します。

表4 主体間連携のための共同の取り組みの実施状況

年 度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	
容器包装 3Rの 「あり方」 検討・研究					容器包装 3R 制度研究会			報告書のまとめ	
				消費者意識調査 第1回		第2回	公開 ヒアリング		
各主体との 交流・意見 交換								各主体との意見 交換会	
		3R リーダー交流会			小冊子「リ サイクルの基 本」を作成	「リサイクルの 基本」完成	川崎市で のワーク ショップ	川崎市で のワーク ショップ	川口市での ワークショップ
						市民リーダー3R 推進モデル講座			
		容器包装 3R 連携市民セミナー							
	東京都	北九州市 川崎市	京都市	仙台市	名古屋市	福岡市	札幌市	東京都	
	容器包装 3R 推進フォーラム								
	横浜市	神戸市	東京都	京都市	さいたま市	名古屋市	仙台市	川崎市(予定)	
			マスクミとの懇談会						
普及・啓発	3R 活動推進全国大会への出展				東京国際包 装展出展			3R 活動推進 全国大会への 出展	
	エコプロダクツ展への出展								
	共通ポスタ ー作成		ホームペー ジ開設		小冊子「リサイクルの基本」配布			啓発用 パンフ作成	
			AC 支援による啓発事業						

1. 容器包装 3R の「あり方」検討・研究

■よりよい法制度に向けた議論の場「容器包装 3R 制度研究会」のまとめ

【3カ年にわたる議論】

容器包装リサイクル法は完全施行後 10 年余が経過していますが、一方で役割分担・費用負担、リデュースやリユースの推進、再商品化のあり方などをめぐる議論が続いています。こうした状況を踏まえ、当連絡会では消費者や自治体、学識者を交えて、現行制度の改善課題、次期法律改正における主要な論点について検討するために、「容器包装 3R 制度研究会」を 2010 年 8 月に立ち上げました。

研究会には消費者・事業者・学識者それぞれのステークホルダーから各回 15 名前後が参加しました。神戸大学の石川雅紀教授を座長として、2011 年 9 月までの計 5 回の開催を通じ、協議すべきテーマの選定およびテーマごとの自由闊達な意見交換を行い、「ステークホルダー間で意見が一致した点、合意に至らなかった点」として取りまとめられ、その概要を公表して 3 度にわたる公開ヒアリングを開催、広くその内容の検証を行ないました。

【報告書のとりまとめと公表】

3カ年にわたる議論の成果は、今年（2013 年）8 月、「容器包装 3R 制度研究会報告書」として取りまとめ、翌 9 月に関係省庁への報告、プレスリリース、及びホームページを通じたの公表（<http://www.3r-suishin.jp/seidoken/seidoken.html>）を行いました。



研究会の様子



公開ヒアリング（東京会場）

2. 各主体との交流と意見交換

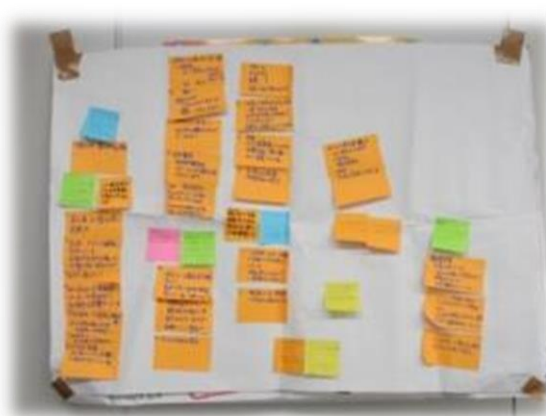
■主体間の情報交換と意見交換の場の設定（意見交換会）

2013 年度は容器包装リサイクル法の 2 回目の見直し年度に当たり、環境省・経済産業省・農林水産省をはじめとする主務省庁において、容器包装リサイクル法の見直しに向けた検討が始まっています。そこで容器包装の 3R 推進、今後のあり方や市民・自治体との信頼や連携の強化など、各主体との意見交換や交流を深めるため、3R 活動推進フォーラムとの共催で「容器包装の 3R に関する市民・自治体等との意見交換会」を開催しています。

写真は、今年度既に開催した岡山市（2013 年 7 月 26 日）、富山市（10 月 25 日）の様子で、出席者からは「他主体との意見交換で認識を新たにした」「日頃疑問に思っていることが理解できた」等の感想をいただいています。



岡山市での意見交換会



富山市での意見交換会

■リサイクルの基本「地域版」ワークショップ

当連絡会では2007年度より3R市民リーダーとの交流会を実施してきました。その成果の1つとして3R啓発小冊子「リサイクルの基本」が完成し、2010年7月に全国の自治体に配布しています。

次のステップとして、『「地域版」リサイクルの基本』を検討するワークショップを川崎市にて実施し、2012年度に「かわさき スマートリサイクル ごみの分別・資源化ガイド」が完成しました。このガイドは2013年9月からの川崎市全域での分別変更に合わせて、活用されています。



かわさき スマートリサイクル ごみの分別・資源化ガイド

今年度は、一度原点に帰って、「リサイクルの基本」の作成にかかわったメンバー中心に3Rリーダー交流会を開いた上で、第2弾として川口市版「リサイクルの基本」づくりに向け、川崎市・川口市両市のメンバーで意見交換をしました。川口市民・行政とともに『「地域版」リサイクルの基本』づくりに取り組み始めています。



川口市での意見交換の様子

■3R 市民リーダー育成プログラム

2011 年度より、都内の 3R 市民リーダーが、市民の方々にいかにリサイクルを伝えるかを考え、イベント等で使える講座プログラムを完成しました。

今年度も 3R 市民リーダー講座を定期的に関催し、リーダーの方々と当連絡会メンバーとの意見交換、出張講座レベルアップのための検討、海外視察報告等を行っています。



3R 市民リーダー講座の様子



3R 市民リーダーによるイベントの開催

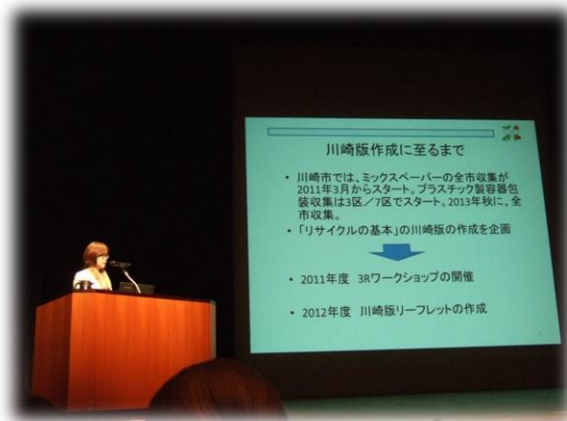
■容器包装 3R 連携市民セミナーの開催

本連絡会では、全国各地で地域の市民や廃棄物減量等推進員、自治体の方々を対象としたセミナーを開催しています。

2013年度のセミナーは「落語で聞こう！3R」と題し、11月15日に新宿区立四谷区民ホールにて開催され、152人の市民、事業者、行政関係者等が参加しました。

第一部では事例報告として本連絡会より事業者の取り組み、NPO法人アクト川崎 庄司佳子氏による「川崎スマートリサイクル」の紹介、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットの鬼沢良子氏による「市民の疑問に答える3R講座」が報告されました。

続く第二部では林家時蔵師匠の環境落語「笑って身につくエコライフ」が披露され、会場の笑いを誘い、続いて時蔵師匠と関東学院大学教授織朱実氏による対談「3Rと落語」がありました。第三部は「3R推進に向け協働して何ができる？」というテーマで織教授をコーディネータに第一部報告者や新宿区環境清掃部長伊藤憲夫氏らを交えたパネルディスカッションが繰り広げられました。



庄司氏の事例報告



会場外の展示



林家時蔵師匠の環境落語と織教授との対談

■容器包装 3R 推進フォーラム

当連絡会では「容器包装 3R 推進フォーラム」と題し、毎年度自治体や市民を主な対象とするフォーラムを各地で開催してきました。容器包装 3R と分別収集の先進的な取り組み事例の学習、それらに係わる情報交換・議論等のプログラムを通じ、消費者・自治体・事業者がどのような連携の形を目指したらよいか話し合い、方向性を共有することを目的としています。

通算で第 8 回目となる 2013 年度のフォーラムは、リデュース・リユース・リサイクルの各分野における関係各主体の先進的な取り組み事例の情報共有をテーマに、川崎市にて 2014 年 2 月 20 日に開催される予定です。



2012 年度フォーラム（仙台）写真

3. 普及・啓発

■小冊子「リサイクルの基本」の配布

3R 市民リーダーとの共同作業の成果である小冊子「リサイクルの基本」は、容器包装のリサイクルについて全ての容器包装を網羅した分かりやすい情報・啓発冊子としてご好評をいただいています。

本冊子はホームページにて PDF 版を公開しているほか、ご希望の自治体、市民団体等には無料で配布しており、2013 年 11 月までに累計で約 7,000 部を配布しました。



小冊子「リサイクルの基本」

■展示会への出展

2013年10月17日に宇都宮市で開催された第8回3R推進全国大会（主催：環境省・環境省関東地方環境事務所・栃木県・3R活動推進フォーラム）にパネル等の出展を行いました。



第8回3R推進全国大会への出展

また、日本最大級の環境イベントであるエコプロダクツ2013（2013年12月12～14日）に、3R推進団体連絡会を構成する八団体が共同出展を行います。それぞれの団体がブース出展を行うほか、連絡会の共通ブースでは、連絡会としての取り組みのパネル展示等を行い、八団体を巡るクイズラリーも行います。（写真はエコプロダクツ2012のものですが）



エコプロダクツ2012への共同出展

■ホームページによる情報発信

当連絡会では、ホームページにおいてこれまでの活動の記録、フォローアップ報告などの情報を掲載しています（<http://www.3r-suishin.jp/>）。

今年度は「容器包装3R制度研究会報告書」等を新たに掲載しています。

3R推進団体連絡会ホームページ

ガラスびんリサイクル促進協議会

■びんのリデュースをホームページやイベントなどで積極的にアピール

びんの軽量化の取り組みは、ガラスびんメーカーと中身メーカーが連携して積極的に進められています。細部にわたる製びん技術の向上や充填ラインにおける配慮などにより、40%以上軽量化されたガラスびんも登場しています。

穀物酢(500ml)

株式会社ミツカン

■商品について

小麦・酒粕・米・コーンをバランスよくブレンドして醸造した、日本で最もポピュラーな醸造酢です。

■軽量化について(工夫したところ等)

190gの超軽量びん導入後、さらなる軽量化に、ガラスびんメーカーと共同で挑戦。設計・生産工程・コーティング膜厚・検査工程等に改良を加え、ライン試験・強度評価をくり返し、ついに169g化を達成しました。2011年より導入しています。

	従来	軽量化後
びんの質量 キヤップ・ラベル 中身を含まない 1本当たりの質量	190g	169g
びんの高さ	190.3mm	190.3mm

<従来びん> <軽量びん>



月桂冠・エコカップ(210ml)

月桂冠株式会社

■商品について

容器軽量化により環境にやさしく、10ml増量でお財布にもやさしい「Wエコ」カップです。

■軽量化について(工夫したところ等)

ガラスびんには刺激に弱いポイントがあります。その部分は従来びんの強度を維持しながら、他の部分のガラス肉厚を極限までカットすることで、従来品の強度を維持しながら軽量化を実現しました。

	従来	軽量化後
びんの質量 キヤップ・ラベル 中身を含まない 1本当たりの質量	155g	129g
びんの高さ	125mm	125mm

<従来びん>



<軽量びん>



軽くなったびん入り商品を紹介している当協議会のホームページ(2012年度掲載商品)
<<http://www.glass-recycle-as.gr.jp/consumer/index1.html>>

びんの軽量化について広く理解していただくために、軽くなったびん入り商品を紹介する「ホームページ」、びんの重量比較ができるイベントなどで積極的にアピールしました。



エコプロダクツ展におけるびんの軽量化比較

■びんリユース促進のための実証事業や全国各地域で展開される取り組みの推進

びんリユースの拡大には、消費者・自治体・事業者との連携した取り組みが必須です。

2012年度は環境省のびんリユースを促進する実証事業において、自治体や事業者等の多様な関係者が連携した地域型びんリユースシステムの構築に取り組みました。



福島県における容器リユースモデル実証事業



奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶(やまとちゃ)飲料開発・販売事業

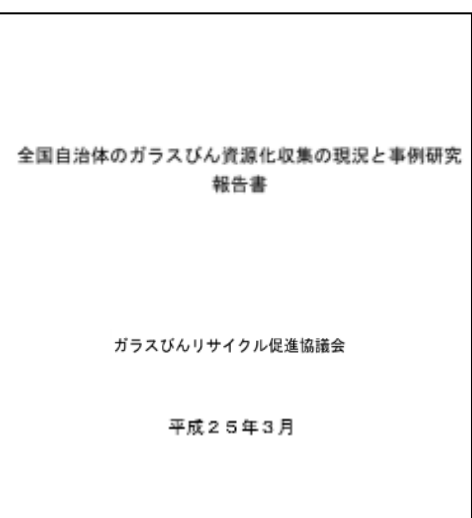
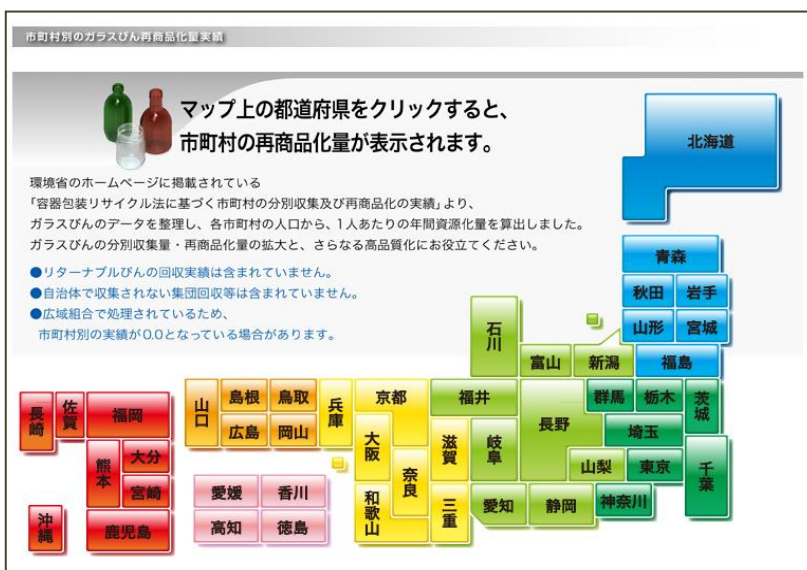
また、2009年2月に立上げたWEBサイト「リターナブルびんポータルサイト」にて、全国各地域で展開されるびんリユースの取り組みの紹介をおこない、リユース推進活動の「見える化」と情報発信に努めました。



WEBサイト「リターナブルびんポータルサイト」 <<http://www.returnable-navi.com/>>

■ガラスびん再資源化量の拡大に向けた取り組みの推進

ガラスびんは分別収集の際に、細かく割れて色分けできない残渣を減らすことが課題となっています。全国自治体によるガラスびんの人口一人あたり再商品化量を集計し、当協議会のホームページに掲載いたしました。また、自治体ごとの収集選別方法と再商品化量の定量的分析（クロス分析）と事例研究を実施し、「全国自治体のガラスびん資源化収集の現況と事例研究」報告書を作成し、2013年3月に発表をおこない、ガラスびんの残渣削減に向け、自治体との連携を強化しました。



「全国自治体のガラスびん資源化収集の現況と事例研究」報告

<2011年度市町村による分別収集によるガラスびんの人口一人あたり再商品化量>

全国合計		無色	茶色	その他の色	ガラスびん合計		
	人口 (H23年度)	人口密度 (人/km ²)	再商品化量 (トン/年)	再商品化量 (トン/年)	再商品化量 (トン/年)	再商品化量 (トン/年)	1人あたり 年間再商品化量 (kg/人)
市町村実績計	121,217,349	374	294,201.6	248,299.4	168,618.5	711,119.5	5.87
広域組実績計			14,649.7	16,533.4	8,996.8	40,179.8	
全国計(市町村実績 + 広域組実績)	126,180,000	334	308,851.3	264,832.8	177,615.2	751,299.3	5.95

自治体によるガラスびんの人口一人あたり資源化量を掲載している当協議会のホームページ
 <<http://www.glass-recycle-as.gr.jp/>>

■ガラスびん3Rの普及と啓発に向けての取り組みの推進

2012年度に「びん to びん」のリサイクルを紹介するムービーを新たに制作し、2013年4月から当協議会のホームページ並びにYouTubeで公開し、情報発信に努めました。

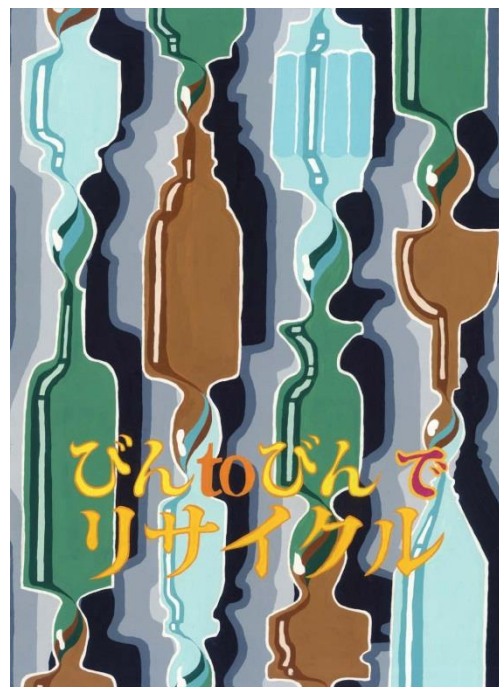


「びん to びん」リサイクルをホームページで公開
<<http://www.glass-recycle-as.gr.jp/>>

小中学生を対象とした「ガラスびん絵画・ポスターコンクール」を継続実施し、次世代に対する環境教育の観点から取り組みの強化をはかりました。



2012年度小学校部門最優秀賞



2012年度中学校部門最優秀賞

資 料

資料 1 過去データ

■リデュース実績総括表

素材	第一次自主行動計画		第二次自主行動計画	
	2010 年度目標 (2004 年度比)	2010 年度実績	2015 年度目標 (2004 年度比)	2012 年度実績 (2006 年度からの 累積削減量)
ガラスびん	1 本当たりの平均重量で 1.5% の軽量化	1.7%	1 本当たりの平均重量で 2.8% の軽量化	2.1% (143 千トン)
PET ボトル	主な容器サイズ・用途ごとに 1 本あたりの平均重量を 3% 軽量化する	15 種中 13 種で 0.2 ~ 19% の軽量化。9 種で 3% の目標を達成。全体としての軽量化率で 8.2%。	指定 PET ボトル全体で 15% の軽量化効果	13.0% (331 千トン)
紙製容器包装	2% 削減	6.7%	総量で 11% の削減	9.9% (711 千トン)
プラスチック容器包装	3% 削減	9.8%	削減率で 13%	11.5% (58 千トン)
スチール缶	1 缶当たりの平均重量で 2% の軽量化	4.1%	1 缶当たりの平均重量で 5% の軽量化	4.9% (115 千トン)
アルミ缶	1 缶当たりの平均重量で 1% の軽量化	2.5%	1 缶当たりの平均重量で 3% の軽量化	3.8% (42 千トン)
飲料用紙容器	重量を平均 1% 軽量化	現状維持	牛乳用 500ml 紙パックで 3% の軽量化 (2005 年度比)	1.0% (165 トン)
段ボール	1 m ² 当たりの平均重量で 1% の軽量化	1.8%	1 m ² 当たりの平均重量で 5% の軽量化	3.6% (985 千トン)

■ リサイクル実績総括表

素材	第一次自主行動計画		第二次自主行動計画	
	2010 年度 目標	2010 年度 実績	2015 年度 目標	2012 年度 実績
ガラスびん	カレット利用率 91%以上 リサイクル率 70%以上	96.8% (67.1%)	リサイクル率 70%以上 カレット利用率 97%以上	68.8% (100.3%)
PET ボトル	回収率 75%以上	72.2%	リサイクル率 85%以上	85.0%
紙製容器包装	回収率 20%以上	20.3% 内、行政回収 13.9%	回収率 25%以上	23.0%
プラスチック 容器包装	収集率 75%以上	60.1%	再資源化率 44%以上	40.9%
スチール缶	リサイクル率 85%以上	89.4%	リサイクル率 85%以上	90.8%
アルミ缶	リサイクル率 90%以上	92.6%	リサイクル率 90%以上	94.7%
飲料用紙容器	回収率 50%以上	43.6%	回収率 50%以上	44.2%
段ボール	回収率 90%以上	99.3%	回収率 95%以上	98.4%

資料 2 3R 推進団体連絡会 構成団体

ガラスびんリサイクル促進協議会（1996年11月19日設立）

東京都新宿区百人町 3-21-16 日本ガラス工業センター 1階

TEL : 03-6279-2577 FAX : 03-3360-0377 ホームページ : <http://www.glass-recycle-as.gr.jp>

PETボトルリサイクル推進協議会（1993年6月22日設立）

東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16 ニッケイビル 2階

TEL : 03-3662-7591 FAX : 03-5623-2885 ホームページ : <http://www.petbottle-rec.gr.jp>

紙製容器包装リサイクル推進協議会（1998年2月5日設立）

東京都港区西新橋 1-1-21 日本酒造会館 3F

TEL : 03-3501-6191 FAX : 03-3501-0203 ホームページ : <http://www.kami-suisinkyo.org/>

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会（1998年4月15日設立）

東京都港区西新橋 1-1-21 日本酒造会館 3F

TEL : 03-3501-5893 FAX : 03-5521-9018 ホームページ : <http://www.pprc.gr.jp>

スチール缶リサイクル協会（1973年4月17日設立）

東京都中央区銀座 7-16-3 日鉄木挽ビル 1階

TEL: 03-5550-9431 FAX: 03-5550-9435 ホームページ : <http://www.steelcan.jp>

アルミ缶リサイクル協会（1973年2月7日設立）

東京都中央区銀座 4-2-15 塚本素山ビル 6F

TEL : 03-6228-7764 FAX : 03-6228-7769 ホームページ : <http://www.alumi-can.or.jp>

飲料用紙容器リサイクル協議会（1997年3月18日設立）

東京都千代田区九段北 1-14-19 乳業会館 4F

TEL : 03-3264-3903 FAX : 03-3261-9176 ホームページ : <http://www.yokankyo.jp/InKami/>

段ボールリサイクル協議会（2000年3月7日設立）

東京都中央区銀座 3-9-11 紙パルプ会館 全国段ボール工業組合連合会内

TEL : 03-3248-4853 FAX : 03-5550-2101 ホームページ : <http://www.danrikyo.jp>

3R 推進団体連絡会ホームページ : <http://3r-suishin.jp/>